

## 「地域とプロ・スポーツを考える」

ぶぎん地域経済研究所 調査事業部長 松本 博之

### 熊谷市にプロ野球チームが誕生

来春、県北部の熊谷市にプロ野球のチームが生まれることが正式に決まった。プロ野球の独立リーグ「BCリーグ」へ熊谷市を本拠地とする「武蔵Heat BEARS」の加盟が認められ2015年4月開始シーズンから参戦する。埼玉県内にはプロ野球（NPB）、サッカーJリーグやプロバスケットボールBJリーグなどのプロ・スポーツのチームが既に存在するが、さいたま市など県南部をフランチャイズするものばかりで、県北部の県民にとっては初のプロスポーツチームと言える。

今回、武蔵Heat BEARSが加盟する「BCリーグ」は北信越地域を中心に本拠地を置くチームで構成されているプロ野球の独立リーグで、2007年に新潟県や長野県など4県で発足し、来年から埼玉県と福島県が加入し8チームでの構成となる。

いわゆる“親会社”の資金で経営されているプロ野球（NPB）と違い、BCリーグの経営は厳しいもので昨年度に黒字だったのは2球団のみだ。球団経営としては、150社程度の企業スポンサーを獲得し、より多くの企業や人を巻き込み、進めていくかが成功へのカギと言われている。地元で開催される公式戦36試合だけでなく野球教室などを通じて幅広い世代にアピールし継続的に地元地域での知名度向上に努めると同時に、熊谷市を中心とする県北部のみならず県央、県南部の地域へファン獲得を進めて行かなければならない。その手法は、同じプロ野球（NPB）のそれとは大いに異なる。

### 希薄なプロ・スポーツと地域社会の係わり

アメリカの大リーグ野球やイギリスのサッカー（プレミアリーグ）等と比較すると我が国におけるプロ・スポーツと地域社会との係わりは希薄である。これは我が国のスポーツの歴史的過程において地域との係わりをほとんど持つことなく発展してきたことに因るところが多い。また我々、日本人がスポーツを一つの“文化”としてとらえることが苦手であったという歴史的経緯も要因である。

我が国のスポーツの発展を担ってきたのは歴史的に「学校」と「企業」である。そこには地域社会の積極的な関与はなかった。またスポーツは学校では「教育」、企業では「宣伝」のツールとして使われ、特に学校教育において「体育」という、スポーツとは似て非なるものに姿を変えてしまった。そこにはスポーツを文化として見つめる“遊び心”は雲散霧消してしまった。

我が国におけるスポーツと地域社会との係わりに大きな転換点となったのは、サッカーJリーグの誕生である。プロ・スポーツの王者であるプロ野球（NPB）を反面教師として、チームが本拠地の地域社会と密接に係わることでサッカーを文化として社会に浸透させ、地域社会との係わりの重要性を初めて明確に認識させた。

さて話を武蔵Heat BEARSを戻そう。同チームが存続、成功するのか否かステイクホルダーとして企業だけでなく地域密着をいかに実践して行くのかにかかっている。勝敗だけでなく地域資産、地域文化として野球が楽しめるようになることに期待したいものだ。